

令和5(2023)年度事業の進捗と課題

- ①ふっとりあホイスコーレの安定経営**
行政等関係機関からの紹介により一般校を中心に訪問し、事業説明を行った。結果として新年度4名(一般校2名含)の新規利用者を迎えることになった。
事業理念を再確認し、プログラム内容、支援方法の見直しを行った。特に、交通安全教室、SNS利用の注意点等の単発プログラム実施に取り組んだ。
- ②中長期計画作成への着手**
「生活の場づくり」については、地域でグループホームの急激なハード整備を受け、改めて利用者のニーズ把握を行うこととした。
生産活動については、委託作業新規2社増と共に、合弁会社設立等企業との新たな協力体制について検討を開始した。
就労支援事業の目的遂行のため、事業所間連携を強化し施設外就労活動への参加者の増員を図った。
- ③利用者の安全・安心**
感染症・災害対策委員会が中心となりBCP更新、防犯・防災研修を法人全体で実施。災害をより身近なものとして実感する機会となった。
法人連絡会はじめ有事には多方面と相互協力ができる関係づくりに尽力した。
外国人介護士については、丁寧なOJTのもと、前向きに業務に精進しており、利用者の評価も高い。
- ④職員の安心・やりがい**
給与規程の改定は予定通り実施されたが、社会情勢等の変化から更なる改定が求められている。
委員会活動等については、担当管理職からの指導、フォローのもと生きた経験を積んでいる。次年度は委員会数の精査が必要。
福利厚生制度は職員評価も高く継続
職員採用については、広報委員会が中心となり、あらゆる機会を通じ情報発信を行ったり、高校生のインターンシップを受け入れたり等地道に取り組んでいるが、4年間新卒採用なし。
- ⑤地域連携と貢献**
相談支援の協働体制に新たに1法人を迎え、情報、考察の幅が広がり、より重層的な体制となった。
共同送迎サービス導入に向けての情報の提供を行った。
法人連絡会から「移動支援従事者養成研修講座」実現のための理解・協力を頂いた。

令和5(2023)年度経営の課題

- ◆外部環境の変化**
報酬改定への準備と対応(就労移行支援事業所の廃止と就労定着支援事業の対応含)
利用者、保護者の福祉サービスに対するニーズの変化
職員の労働環境および労働条件向上への対応
社会情勢の不安定さ
物価高騰への対応
- ◆内部環境の変化**
職員年齢層のアンバランス
就労支援事業の不安定さ
人件費の自然増加
社会保険加入対象者の拡大と年取の壁への対応
感染症予防対策と支援の質のバランス

令和6(2024)年度事業運営方針

- ①安定経営のための基盤強化**
利用者・保護者・地域等のニーズ把握とその根拠を施設運営に対して反映
利用希望者をお断りしないための組織づくり
ふっとりあホイスコーレの利用増施策
- ②就労事業の再構築**
就労支援事業組織、体制、法人内での役割と位置付けを再検討
施設外就労活動の独自性とアップデート
取引業者と下請け単価(販売価格)の精査
- ③利用者の安全・安心**
感染予防対策と並行し、アフターコロナを意識した支援方法、内容の精査と実施
利用者それぞれの環境、状況にあった健康観察と看護師を中心とした専門職からのアドバイス体制
事故の未然防止・あらゆる災害を想定した事業継続計画(BCP)の修正と更新
職員の資質向上のため、職員研修内容のブラッシュアップと階層に応じた研修の実施
- ④職員の安心・やりがい**
職員それぞれの持ち味と能力が発揮できる職場、労働環境と役割の提供
法人の継続的成長と組織の更なる活性化(職員の採用と定着)を目的とし規則・規程類の積極的メンテナンス
中長期事業計画案に則した職員採用計画
- ⑤地域連携と貢献**
移動支援従事者養成研修講座の開設
特定相談支援事業所協働体制の充実
伊賀市社会福祉法人連絡会への積極的参画

令和6(2024)年度 事業計画

令和6年度方針～寄り添い力を高める～

単位:千円

令和6(2024)年度事業収支計画(案)

令和5年度資金収支予算(案) (第2次補正) 令和6年度当初資金収支予算(案)

収入417,141千円
事業活動収入406,455 福祉事業 340,932 就労事業 65,523
施設整備等 10,461
その他の活動 225

支出425,233千円
事業活動支出409,047 福祉事業 328,216 就労事業 80,831
施設整備等 14,187
その他の活動 1,999

収支差▲8,092千円

収入428,922千円
事業活動収入415,328 福祉事業 349,496 就労事業 65,832
施設整備等 3,774
その他の活動 9,820

支出435,775千円
事業活動支出426,421 福祉事業 351,171 就労事業 75,250
施設整備等 7,163
その他の活動 2,191

収支差▲6,853千円

- ◆ 考 察**
新規利用者6名
福祉医療機構借入モオンマール・ココット分返済完了
福祉医療機構借入ホイスコーレ分元本返済開始
ふっとりあハウンド就労移行支援事業廃止(ホイスコーレへ統合)
- ◆ 投資・修繕事業**
上野ひまわり作業所 外装塗装・換気設備修繕 9,800千円
法人設立30周年記念事業・ひまわりコンサート 1,700千円
記念誌の発行 500千円

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



社会福祉法人維雅幸育会は、国連が2030年までに達成をめざす「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、積極的に福祉事業に取り組みます。
そして、SDGsについて様々な角度から考え、SDGsが掲げる「誰も置き去りにしない」世界の実現を目指します。

事業推進重点施策

《事業運営方針に基づく重点項目》

- ①安定経営のための基盤強化**
・利用者・保護者・地域等のニーズ把握とその根拠を施設運営に対して反映させていく
・利用希望者をお断りしない支援環境の基礎作りと支援力の向上
・支援学校、一般校、関係機関、団体、個人への切れ目ない情報発信と共有を継続する
- ②就労事業の再構築**
・就労支援事業の重要性を共有し、法人全体で体制を構築し、経済活動を実践していく
・施設外就労活動のより安定化を目指し、企業と新たなパートナーシップ関係を構築していく(合弁会社の設立やアライアンス契約等)
・取引業者と下請け単価(販売価格)の精査を行うことで金額の適正化を確認する
- ③利用者の安全・安心**
・アフターコロナを契機として前例に捉われず、支援方法、内容を精査し取り組んでいく
・利用者個々の環境、状況に応じた健康管理と看護師を中心とした専門職による傾聴とアドバイスの体制づくり
・安心と安全が実感できる事業継続計画(BCP)のブラッシュアップを行う
- ④職員の安心・やりがい**
・職員が前向きに仕事に向き合える規則、規程の改正と職員教育の実施
・職員組織構成を意識した採用を、合同面接会、SNS等を活用し、継続的に行う
- ⑤地域連携と貢献**
・移動支援従事者養成研修講座の開設のため関係機関、団体、個人へ啓発と協議を継続する
・地域の声を大切にし、「必要とされる社会福祉法人」を他法人との連携のなかでも作り上げていく

《各事業所・部門重点項目》

- 【上野ひまわり作業所】(生活介護・B型)**
・B型/生活介護に捉われず、それぞれの状態に合わせた「はたらく」ニーズの再確認を行い、モチベーション高く取り組める作業及び活動環境の整備
・ニーズの高いレクリエーションや企画展参加を計画し、活動満足度の向上を図る(花垣地区、伊賀名張圏域を中心に活動の発信を強化し、地域交流も行う)
・繰り返しの訓練等により不安なく災害に対処できる力を育む
- 【びいはいぶ】(B型)**
・標準月額工賃80,000円を目指す(主に㈱ミルボンでの施設外就労に取り組む方を対象)
・法人内・外との連携強化や職員の支援スキルアップを図り、利用者の障がい特性やニーズに合わせた支援を行う
・施設外就労先の役割を明確に示し、個々のニーズに合わせた働き方を提供する

- 【ふっとりあハウンド】(B型・移行・定着)**
・利用者の適職にマッチングする生産活動を提供するため、内働作業の充実、環境整備を行う
・利用者の障害特性に応じた支援を行うために、面談、相談、ソーシャルスキルトレーニング(SST)に取り組む
・B型における月額平均工賃30,000円/月以上の実施

- 【ふっとりあアウス】(生活介護・生活訓練)**
・運動メニューを充実させることにより、利用者に合った効果的な運動プログラムを提供する
・生産活動の充実を図り、より多くの方が生産活動に参加できるようにする
・感染予防に取り組みながら、運動・生産活動以外の活動の充実を図る
・生活訓練については、精神障害の方だけでなく、外国籍の方の受け入れも積極的に行う

- 【ふっとりあモオンマール】(A型・B型)**
・利用者が働きがい・やりがいを高めていけるよう、生産活動をの中で個々の役割をもてるように支援する
・利用者の適職にマッチングする生産活動を提供し、就労環境を整備する
・A型における平均労働時間6時間/日以上の実現 ・B型における月額平均工賃35,000円/月の実現

- 【ふっとりあホイスコーレ】(生活訓練・就労移行)**
・個々に応じた支援を行うためにコース別にカリキュラムを明確化して実施する
・職種提供をするために施設外就労活動(職場実習)の職域拡大をとする
・一般就労への移行促進
・一人暮らし等に向けた24時間パッケージ型自立生活支援(ショートステイの活用等)を実施する

- 【特定相談】**
・断らない相談支援、つなぐ相談支援
・相談しやすい体制づくり
・将来の暮らしアンケート継続等による、ニーズ調査を行う

- 【グループホーム】**
・感染予防対策の見直しと、生活スタイルの見直し、余暇支援の充実
・「自助(自分の身は自分で守る)」を念頭に置いた防災対策や防犯対策の実施

- 【事務】**
・労務管理・給与計算事務のスリム化と請求事務の標準化
・委託業務の整理(アウトソーシングとインソーシングの整理)
・報酬改定年における制度理解と適切な請求

- 【医務・ヘルパー】**
・認定看護管理者(非常勤)を活用し、利用者の健康管理と病気の早期発見早期治療に取り組む
・利用者のニーズに対応するため、ヘルパー及びガイドヘルパーを増員する

- 【給食】**
・食事を適温で提供できるよう工夫・改善に取り組む
・利用者の健康状態を把握すると共に、食生活指針の10項目に基づき食事提供の見直しに取り組む

- 【全体事業】**
・法人設立30周年記念事業・ひまわりコンサートの開催 8/4(日) 伊賀市文化会館 ・記念誌の発行
・虐待防止の取り組み及び全体研修の継続
・日帰り旅行の実施 ・新年会の開催 ・二十歳の集い・遷居祝賀会の開催

- 【事業所更新】**
・ハウンド定着 4/30 ・相談児童 7/31 ・ミニボ・ふっとりあ短期・フウス生活訓練 9/30
・モオンマール・ハウンド・ココット短期 R7年 3/31